

自転車などのハンドルによる 子どものお腹のけがに注意

—内臓損傷などの重篤化も—

医療機関ネットワークに寄せられた「**ハンドル外傷※**」の情報は**39件**

※自転車などのハンドルで腹部等を打撲する事故

(2021年4月～2026年7月伝送分)



※画像はイメージ（実際の事故とは関係がありません）

- ▷ 幼児～15歳まで幅広く発生
7、9、11歳が多い
- ▷ 要入院のうち、多くは内臓損傷であり、
外傷性脾損傷、肝損傷等がみられる

★医師からのコメント★

ハンドル外傷は「見た目の軽さ」と
「お腹の中の重症度」が一致しない！

【事件事例】

マンホールでスリップ

自転車乗車中、マンホールでスリップし自転車に覆いかぶさるよう
に受傷。ハンドル外傷により肝損傷。（6歳）

カーブで転倒

自転車でカーブを曲がりきれずに転倒。倒れ込むときにハンドルの
端が腹部に強く当たった。自宅で様子を見ていたが痛みが強くなり
受診。脾臓を損傷。（9歳）

【注意】



グリップが破れる

↓
金属製のハンドル端部が露出

↓
転倒時にお腹へ強く当たる

↓
内臓損傷のおそれ

★消費者へのアドバイス★

- ✓ 転倒する危険性を減らすため、子どもの体格に合った自転車等を選びましょう。
- ✓ 大きな事故を防ぐため、グリップ底部が破れていないか等確認をしましょう。
- ✓ 子どもは大人より少ない力で内臓損傷を受けやすいため、気になる様子があれば、
早めに医療機関を受診しましょう。
- ✓ 子どもに、「お腹にはたくさん大切な臓器が入っている」「お腹をぶつけたらすぐに
大人に伝える」ことを教えておきましょう。



独立行政法人
国民生活センター